

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

## 2014年 2月 顕現節

### メシアに出会った証し ～私の信仰の物語を語る～

彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、「わたしたちはメシア—『油を注がれた者』という意味—に出会った」と言った。(ヨハネ1:41)

司祭 ミカエル 小南 晃

今年の特祷・聖餐式聖書日課(A年)の顕現後第2主日には、ヨハネによる福音書1:29以下の、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」という、洗礼者ヨハネのイエスに対する証しを聞いて、アンデレともう一人の弟子がイエスに従い、そしてアンデレが自分の兄弟シモンに「わたしたちはメシアに出会った」と証ししたことを語る箇所が選ばれていました。

そして顕現後第3主日には、ガリラヤ湖畔にてイエスが、漁師であったシモンとその兄弟アンデレに、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と招き、続いてゼベダイの子ヤコブとヨハネを呼ばれた箇所が選ばれていました(マタイ4:19以下)。

両方とも最初の弟子たちの召命を覚えているものです。

#### 招かれた喜び

この弟子の召命の記事は、ヨハネによる福音書の方には、今見ましたアンデレが兄弟シモンに証した記事に続いて、フィリポがイエスに招かれ、フィリポはナタナエルに証しし、ナタナエルをイエスのもとに誘うという、証しと召命の連鎖が描かれています。マタイによる福音書には、イエスの招きに対して最初の4人の弟子が、

すぐに全てを捨てて従ったことが記されています。そこには召された弟子たちのイエスに対する信仰の決断が読み取れます。

しかし同時にこうした召命の背後には、メシアであるイエスとの出会いの喜び、さらにはそのイエスに招かれたことへの嬉しさが溢れていた筈です。即ち、召命の背後には、「イエスはこんな私を認めて下さり、お招き下さった」という、謙虚な感謝の喜びが必ずある筈なのです。

ペトロは、イエスの力を目の当たりにした時、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです(ルカ5:8)」と叫びました。パウロは「わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。神の恵みによって今日のわたしがあるのです(1コリント15:9-10)」と、使徒として召された自分についての思いを記しています。召命には、神の御前に謙る思いと、その私を顧みてくださったという感謝が必ず伴うのです。

そして召命とは使徒に限られたものではなく、また教役者に限られたものでもなく、キリスト者であること自体が召命なのです。

#### 心に訴えかける物語

あるテレビ番組—1月7日放送「NHKクローズアップ現代・物語の力が社会を変える」—で、NPOやボランティア活動が広く展開して行くためには、人々の心に訴えかける物語が必要であるということが言われていました。

そこでまず最初に大切なのは、自分は何でこの活動をしているのかを語る「セルフ(Self)・私の物語」。次にその価値観を共有するための「アス(Us)・私たちの物語」。そして、なぜ今行動すべきかを伝える「ナウ(Now)・今の物語」という、セルフ・アス・ナウの三つの要素が必要というものでした。

そしてその番組から「セルフ・私の物語」は、何らかの痛みとその癒しの記憶であり、そこに共感が生まれた時に、「アス・私たちの物語」に繋がるように見えました。

#### 私の信仰の物語

これは福音宣教・信仰の証しについても同じことが言えるのではないのでしょうか。そしてそのために大事なものは、やはりまず「セルフ・私の物語」、即ち「主はこんな私を愛してくださった・・・認めてくださった・・・招いてくださった」という、謙虚さに裏打ちされた、感謝と喜びを伴った「私の信仰の物語」ということになるのではないかと思います。

弟子たちの召命と信仰の証しについて思い巡らしながら、今一度、神の御前に謙って、私たちの信仰生活、人生を振り返り、そのような「私の信仰の物語」を語る力が与えられますように、共に祈り求めて参りましょう。

#### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
" 9時15分 教会学校  
" 10時30分 聖餐式・説教  
午 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
土 午前10時30分 教会掃除  
(ご奉仕をお願いします)